

■ 帝塚山・万代池界隈の略年表

年 代	内 容
5 世紀頃	帝塚山古墳の造成
明治末期	大阪の近郊周辺に、耕地整理組合の組織化が始まる。
大正 2 年 2 月	住吉第一耕地整理組合の認可(住吉村住吉町の一部) この頃から、帝塚山は住宅地として開発される。
大正 6 年	帝塚山学院の創立
大正 14 年 4 月	大阪市域の拡張により東成郡住吉村が市域に編入されて、住吉区となった。
大正 14 年 4、5 月	住吉第一、第二耕地整理組合の認可(住吉町の一部)
大正 14 年	「財団法人 住吉村常盤会」を設立し、村有財産の万代池周辺や帝塚山古墳など 2 万坪以上を、常盤会の資産とした。
昭和 8 年	風致地区の指定(高さ制限等の詳細は昭和 45 年に規定)
昭和 12 年	帝塚山古墳を、文化財としての仮指定の申請。
昭和 15 年	万代池及び周辺が、大阪市の公園として提供された。
昭和 38 年 10 月	帝塚山古墳が、文化財に正式指定された。

■ 帝塚山まちあるき で見えるポイント

- 登録文化財の建物や、活用されている近代建築 (マップの解説を参照)
- 帝塚山古墳と、上町台地の断層 (東粉浜小学校、住吉中学校沿い)
- 万代池公園の周辺
 - ・ 旧府立女子専門学校(第 2 次大戦前)、戦後は府立女子大学の跡地
 - ・ 熊野街道
- 帝塚山(聖天山風致地区内)の住宅地
 - ・ 帝塚山学院と、敷地の大きい一戸建て中心の住宅地
 - ・ 安藤忠雄、村野藤吾設計の住宅(数件; 帝塚山中 1~2 丁目、阿倍野区北島 3 丁目)
- 北島 (聖天山風致地区内)の住宅地
 - ・ 阿部野神社の周辺
 - ・ ドムール北島 (昭和 56 年公社分譲住宅; 遠藤剛生設計: 北島 3-3)